

第9回エコアクション21 全国交流研修会議in松山

第1分科会
建設業

平成26年10月24・25日

建設業分科会

グループワークのテーマ

- 審査人として建設業受審事業者へ如何に効果的な指導助言を行うか。
- ねらい
エコアクション21の審査を通じて企業にどんな実質効果をもたらせたか。審査人はその企業の状況を踏まえどのような的確なアドバイスで効果をもたらせたか、についての意見交換を行う。

意見交換のポイント

- ①事業者の要請、満足度を満たす審査内容。どのようなアドバイスが感謝されたか。
- ②自分が実践し提案したアドバイスの事例紹介、それぞれの実践ノウハウの開陳。グループメンバーの事例から学ぶ。
- ③効果的なアドバイスの方法、どのような視点からアドバイスを実施したか。
- ④エコアクション21運用上の効果の内容、具体的な効果の中身

⑤事業者がエコアクション21へ意欲的に取り組むようどのような指導をしているか。その指導方法、事例についての意見交換

⑥事業者の持つ特筆される活動内容、独自の特色ある活動、取り組み姿勢などへの賛同、評価

⑦審査品質の向上、審査の進め方、事業者に信頼され感謝される審査方法、審査内容。

⑧意見交換を踏まえて更なるエコアクション21の普及

進め方

- ①グループメンバー同士の交流が第一の目的
- ②和気藹々の雰囲気でお互いの意見交換、お互いの意見を尊重する。
- ③検討事例として建設会社の環境活動レポートの概要を取り上げています。そのケーススタディを通じて実践的なアドバイスの方法、内容に関して意見交換をする。
- ④事前に提出したご自分の指導助言の実践事例を踏まえて提案する。

- ⑤顧客の満足、利益になる実践的なアドバイス
- ⑥リーダー、書記、タイムキーパーの進行への協力
- ⑦賛同するアドバイスの共有
- ⑧結論は求めませんが、グループ内でどんな有効な意見が出たか、議論がどのように発展したかを取りまとめる。
- ⑨グループとしての課題を整理する。

タイムスケジュール

15:15から15:25 分科会開会あいさつ

挨拶及び趣旨説明;伊藤

スケジュール確認:山崎

15:25から17:05 グループワーク

①自己紹介(一人1分)

②リーダー挨拶(5分)

③ケーススタディの読み込み(15分)

④議論(60分)

17:05から17:10 休憩

17:10から18:10 各グループからの発表

1グループ4分間(質疑応答時間を含む)

18:10から18:15 総評(伊藤)

検討対象ケース1 総合建設業

(1回目の更新審査時点)

- 事業活動: 建設業(土木工事、建築工事)
- 従業員数: 40名
- 売上高: 9億円(土木6割、建築4割)
- 工事件数: 100件
- 平成24年度CO2排出量: 183.5トン-CO2

(おもに重機類の軽油使用及び車両ガソリン使用)

- 主な活動計画の内容: 燃料使用量の削減、環境負荷の少ない工事、環境配慮資材使用

- 代表者の評価見直し

- 環境目標の達成状況は工事量に左右される。
- 環境配慮工事が重要であり、現場担当者は創意工夫提案により取組みを実施すること。
- 現場の軽油使用量削減については工事の特性により大きく変化するので削減が困難な場合もある。改善が必要と考える。
- 全社員の環境意識の向上に努め環境負荷の低減に努めること。

検討対象ケース2 設備工事業

(最初の更新審査時点)

- 事業活動:給排水衛生設備工事業、水道施設工事業、空調設備工事業
- 従業員数:16名
- 売上高:3.3億円
- 工事件数:750件
- 平成25年度CO2排出量:43トン-CO2
- (おもに本社電気、ガソリン、軽油使用)
- 主な活動計画の内容:燃料使用量の削減、環境負荷の少ない工事、エコ機器の販売

- 代表者による評価見直し
 - 事務所の照明をLEDに取り換えるなど節電対策を実施
 - 営業車をエコカーに買い替えた。車に不要物を積載しない、タイヤ空気圧のチェック実施
 - 重機、車両のアイドリングストップ
 - 顧客のリフォームに伴いエコ機器の販売
 - 南海トラフ地震への備え

検討対象ケース3 土木工事業

(最初の間審査時点)

- 事業活動: 建設業(土木工事)
- 従業員数: 18名
- 売上高: 4.54億円工事件数: 25件
- 平成24年度CO2排出量: 84.1トン-CO2
(おもに重機類の軽油使用及び車両ガソリン使用、電気使用)
- 主な活動計画の内容: 燃料使用量の削減、機械の選定、粉じん対策、間伐材使用の看板、型枠等

- 代表者による評価見直し
 - 従業員の環境への意識は向上してきた。
 - 工事現場が増えると重機車両の稼働が増え化石燃料使用となりCO2排出量が増える。産廃排出量も同様である。

ケース1 グループワーク発表

グループ名：

第4・第7・第11・第13

■ 当該企業の特徴を踏まえた指導助言

- ① 事業活動の記載：特定建設業、一般建設業に区分
- ② 環境方針：化学物質の管理を追記
- ③ 目標設定：現場と事務所、原単位設定
- ④ 目標と実績との差異分析、原因追究
- ⑤ 産廃目標はリサイクル率
- ⑥ 環境法規改正動向把握
- ⑦ 代表者の評価と見直し：指示はあるが具体性に乏しい。見直し会議で適切な指示を出す仕組みを作る
- ⑧ 目標と日常管理の詳細を記載する

■新たな視点の指導助言

- ①建設業は変動・内容が変化する一個別案件ごとの管理
- ②会社の能力に合わせた指導、会社に役に立つ視点からの指導
- ④発注者の要望を的確に把握、地域貢献活動
- ⑥工事評価につながる視点
- ⑦環境配慮工事のための教育訓練（代表者への教育、再生エネルギー）

- ⑧データの可視化(グラフ化など)
- ⑨他社の環境事故事例収集
- ⑩環境サプライチェーン実現のためのデータ集計の仕組みづくり
- ⑪日本建設業連合会HPで取り組み事例を勉強する
- ⑫目標と日常管理を詳細に記載する

ケース2 グループワーク発表

グループ名：

第2・第5・第8・第12・第14

■当該企業の特徴を踏まえた指導助言

- ①環境目標と実績把握：原単位
- ②環境目標の頭に、グリーン資材購入、環境配慮工事を持ってくる
- ③エコ機器販売目標の設定
- ④産廃リサイクル率、
- ⑤重機車両ヘッドライブレコーダー
- ⑤現場での安全点検と環境活動の点検
- ⑥教育訓練：必要な資格取得、不足している資格を示す。技術向上教育

■新たな視点の指導助言

- ①仕事の内容、規模に合わせた目標設定
- ②コンテストなど楽しく活動できる提案(遊びどころ)
- ③リスク管理と法令遵守
- ④レポートのビジュアル化
- ⑤地域貢献活動:地域へのアピール
- ⑥高度技術への取組指導

ケース3 グループワーク発表

グループ名：

第3・第6・第9・第12・第15

■当該企業の特徴を踏まえた指導助言

- ①社内提案数の増加を目標展開する
- ②総量把握ではなく売上高指標の設定
- ③リサイクル率での目標設定
- ④燃料使用量の工種分析、原因を確認する。
- ⑤環境に配慮した機械の使用
- ⑥グリーン購入：事務用品と建設資材
- ⑦CO₂排出量は原単位で把握する。
- ⑧目標の達成評価
- ⑨目標は事務所、現場に分ける。

■ 新たな視点の指導助言

- ① 運用：工事中の囲いに標高を記載した看板、建設機械はリース活用
- ② 目標設定：2次製品について原単位の分母を工夫する。
- ③ 安全パトロールと環境活動についてもチェックしていることは評価される。
- ④ 現場と管理の温度差

- 経営戦略としてEA21を使う主な仕事は公共事業：主なものは①安全、②環境負荷低減
- 工事現場で事前に安全管理と環境負荷低減のチェックシート、事前の教育とレビュー
- 環境活動レポート：自治体へのPR、自社パンフレット代わりにレポート作成
- EA21委員会の活性化：会社が儲かることをみんなで考える。レポートも事務局ひとりで作成しないでみんなのアイデアを盛り込む

おわりに

- 建設業の特性(受注産業、1件ごとに内容が違
う、公共事業、安全管理、元請け下請制度、
重機車両によるCO2排出量、現場が事業活動
の場所、自然環境へのかかわりなど)を踏ま
えた指導助言
- 地場の建設業の役割(小規模、多様な業種)
- 会社の特性(事業内容、規模、組織、代表者
の意向)
- 発注者への対応、地域社会への貢献

EA21を生かした建設業発展戦略 への指導助言

- エコアクション21の環境経営システムを生かした問題解決：計数管理、社員教育訓練システム、法令遵守システム、危機管理システム、社内コミュニケーション
- エコアクション21の環境活動を生かした現場技術向上：環境配慮工事による創意工夫
- エコアクション21システムによる業績向上、利益向上：環境負荷削減＝経費削減＝地球温暖化防止貢献 工事評価点向上

御清聴ありがとうございました。